

奈良女子大学 <関西の社会運動を考えるシンポジウム>実行委員会主催

# 社会運動で語ること／伝えること／繋がること

——関西在日・部落問題にかかわるトランスジェンダー<土肥 いつき>との対話

基調講演 土肥 いつき (京都府立高校教員)

「ありのままの私を生きる」ために

——セクシュアリティをとおして自分自身と出会い直しませんか？

2011年1月9日[日] 13:00 ~

奈良女子大学 N棟 101 参加無料

討論者 上野 久美 (「NPO 法人 自立生活支援センターフリーダム 21」 所長)

岸 政彦 (龍谷大学社会学部准教授)

司会 鶴田 幸恵 (奈良女子大学人間文化研究科助教)

渡辺 克典 (名古屋大学環境学研究科博士研究員)

共催 奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センター / 奈良女子大学大学院人間文化研究科社会・地域学講座  
お問い合わせ 下記連絡先までお申し込みください。当日参加も可能です。

連絡先 シンポジウム実行委員会代表：鶴田 幸恵 メール：trt-s@cc.nara-wu.ac.jp FAX：0742-20-3062

# 社会運動で語ること／伝わること／繋がること

—関西在日・部落問題にかかわるトランスジェンダー〈土肥 いつき〉との対話

関西では、被差別部落問題、在日韓国・朝鮮人 底辺労働者などの人権問題にかかわる活動が盛んです。これらの社会問題に取り組む「関西の社会運動」の特徴のひとつとして、さまざまな活動が緩やかに連帯していることが挙げられます。こういった組織間などの繋がりは、それぞれの運動にかかわる人びとの「語り」とともに展開されています。しかしその一方で、近年盛んになっている〈差別される側の語り〉を分析する社会調査の試みにおいて、「語ること」がどのように「伝わり」、「繋がり」を作ってゆくかについては十分に考えられてきたとはいえません。

基調講演の内容は、セクシュアリティ入門にもなっています。そのなかで、「語り口（独特のテンポや笑い）」を体験していただきたいと思います。討論者は社会運動のさまざまな語りに豊富にふれながら、それぞれ実践や研究を積み重ねてきた方たちです。このシンポジウムでは、「語り」を通じて社会運動が「繋がっていく」ことを可能にする「人びとの方法論（ethnomethodology）」に焦点を当てながら、「関西の社会運動」を考える視点や方法について、活動家と研究者のコラボレーションを通じ、社会科学的に探求していきます。

鶴田 幸恵（奈良女子大学人間文化研究科助教）

## 登壇者 |

### 土肥 いつき（どひ・いつき）

京都府立高校教員。全国在日外国人教育研究会事務局員。セクシュアルマイノリティ教職員ネットワーク副代表。全国在日外国人生徒交流会、トランスジェンダー生徒交流会（大阪市内の部落で開催）、ジェンダークリニック受診者の会（守口市内の授産施設で開催）、「玖伊屋（くいや）」（在日朝鮮人の集住地域である京都の東九条で開催）などの運営に携わっている。趣味は、交流会づくり。stn21 編『セクシュアルマイノリティ』（明石書店）、米沢泉美編著『トランスジェンダリズム宣言』（社会批評社）などに執筆。NHK 教育「福祉ネットワーク」「ハートをつなごう」などに出演。

### 岸 政彦（きし・まさひと）

龍谷大学社会学部准教授。大阪市立大学大学院単位修得退学、博士（文学）。専門は社会学、特に質的調査法、エスニシティ論、差別論など。沖縄の労働力移動とアイデンティティ形成というテーマで生活史調査をおこなう。現在は大阪市内の都市型被差別部落で量的調査と生活史調査を同時に進行中。最新の論文は「貧困という全体性——『複合下層』としての都市型部落から」『現代思想』2010年6月号。

## お問い合わせ |

下記連絡先までお申し込みください。当日参加も可能です。  
シンポジウム実行委員会代表 鶴田 幸恵  
メール trt-s@cc.nara-wu.ac.jp FAX 0742-20-3062

## 会場 |

国立大学法人 奈良女子大学 N 棟 101  
〒630-8506 奈良市北魚屋東町  
近鉄奈良駅より北へ徒歩 5 分  
JR 奈良駅より市内循環バス 近鉄奈良駅前下車  
\*お車での来学はご遠慮ください。

### 上野 久美（うえの・くみ）

7歳の時、脊髄性筋萎縮症と診断される。10歳の時、施設入所をし、22歳で施設を退所し地域での自立生活を始める。重度障害者の介護保障や人権活動をする。現在「NPO 法人 自立生活支援センターフリーダム 21」の所長を務める。あらゆる人権問題（部落差別、セクシュアリティ等）に目を向け、且つ、楽しく人権運動をするのがポリシー。

### 鶴田 幸恵（つるた・さちえ）

奈良女子大学人間文化研究科助教、博士（社会学）、専門社会調査士、GID 学会理事。専門は、ジェンダー論、セクシュアリティ論、エスノメソドロジー、医療社会学。今後、社会運動論を付け加える予定。著書に『性同一性障害のエスノグラフィ——性現象の社会学』（2009、ハーベスト社）がある。

### 渡辺 克典（わたなべ・かつのり）

名古屋大学環境学研究所博士研究員、博士（社会学）、専門社会調査士。専門は、障害学、歴史社会学、相互行為論、医療社会学。これまでは歴史社会学の手法を用いて「国民国家形成期における言語障害者」について研究してきました。今後は、病者・障害者による当事者運動について考えていきたいと思っています。

